

Portable Machine Analyzer for Machine Diagnosis, "Model MK-310"

Katsuhiko Teramae

1 はじめに

設備診断には、ポータブル機器による定期的、間欠的な点検方法と、常時監視システムによる連続的なモニタリングとがある。前者



- (b) トランジェントレコーディング(記憶容量 4Kワード)
 - (c) リニアスペクトラム
 - (d) スペクトラムの三次元表示
 - (e) スペクトラムの大きいもの10個抽出表示
 - (f) 自動診断: バランス不良, ミスアラインメント・ベアリング不良, 歯車破損
 - (g) フィールドバランス
 - (h) スペクトラムの微積分
- (2) 入力部
 入力チャンネル: 1チャンネル
 3 1/2 インチ プリンター

- 外形寸法: 375(W)×280(D)×130(H)mm
 重量: 約 6.5 kg
- (9) 標準構成
- | | | |
|---------------|----|---------|
| 本体 MK-310 | 1台 | |
| ピックアップ PU-101 | 1個 | ケーブル 5m |
| 入力ケーブル | 1本 | ケーブル 1m |
| AC アダプタ | 1個 | |
| 記録紙 | 5巻 | |
| 取扱説明書 | 1部 | |

電圧: AC (1 Hz, -3 dB)
 アッテネータレンジ:

Fig. 2 は, ベアリング損傷時の振動測定による診断例である。診断は, 内蔵の自動診断ソフトにより, あらかじめ与えた回転速度